



第3回 Advanced Breast Conference



相良吉昭理事長が座長を務めさせて頂いた第3回となる今回は、プログラムを3部構成とし、2016年8月6日（土）仙台にて開催しました。

第1部の「マルチモダリティの臨床的ベネフィット」では、森先生(東北大学)よりMRIと造影超音波検査中心に診断における有用性と現状について、宮下先生(東北大学)からは2Dのマンモグラフィを中心に、マンモグラフィ検診不利益を減らすための取り組みや、外科医として画像診断に求めることについてご講演頂きました。

第2部の「テクニカルベネフィット」では、超音波検査の施行者依存性の克服を目指してシーメンスが取り組んできたテクノロジー、および乳腺画像診断におけるMRIの役割や最新トピックをご紹介します。また、シーメンスからの情報提供に加えて、岸本先生(明和病院)より「トモシンセシスの有用性と臨床的位置付け」と題して、参加者の方にも手元のモニタで実際の症例をご覧いただきながら、トモシンセシス読影の実践講習を行いました。続けて、増田先生(明和病院)より、トモシンセシスの乳房撮影について、導入前の懸念点が実際の運用でどのように解消されたかと、MAMMOMAT Inspirationにより被検者の苦痛が減った等のご報告をいただきました。

第3部は「マンモグラフィの精度向上を目指して」をテーマに、斎先生(東北大学)よりデジタルマンモの品質管理のポイントについて、平井先生(北福島医療センター)より、画像から見たポジショニングについて、実際の臨床画像を提示いただきながら、問題点と解決ポイントを分かりやすくご説明いただきました。

